JBL PROFESSIONAL by HARMAN

パワード・スピーカー／パワード・サブウーファー

PRX600 Series

(PRX612M, PRX615M, PRX625, PRX635, PRX618S, PRX618S-XLF)

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

2012年6月版

安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、
重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義の
ように「警告」「注意」の二つに区分しています。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

⚠ 警告

■ スピーカーを濡らさないでください。火災や感電の原因になります。雨天、降雪中は濡れないように設置してください。

■ AC100V 50Hz/60Hzの電源で使用してください。これ以外の電源で使用すると火災や感電の原因となります。

■ 必ず専用の電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり危険です。また、同梱された電源ケーブルは、他の機器には使用しないでください。

■ 電源ケーブルの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因となります。

■ 濡れた手で、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。

■ 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。

■ 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常が起きたときは、ただちに電源を外し修理を依頼してください。
異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

■ 開梱や持ち運びの際には、重量を確認し、けがをしないよう注意してください。

■ 必要な電流容量を安全に供給できるよう、適切な電源回路を用意してください。

■ 傾いたところなど不安定な場所や、磨かれた床など滑りやすい面に置かないでください。音の出力エネルギーによってスピーカーが動いてしまうおそれがあり、落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。水平な場所に置き、ゴムマットの上に置くなどの対処をしてください。

■ 以下のような場所には設置しないでください。火災や故障の原因となります。
- 直射日光のあたる場所
- 極度の低温または高温の場所
- 湿気の多い場所
- ほこりの多い場所
- 振動の多い場所

■ スピーカースタンドに取付けたり、吊り下げて使用する場合は、この取扱説明書をよくお読みになり、安全に設置してください。

■ 通気性の良い場所に設置し、機器の吸気口や排気口は絶対に塞がないでください。熱がこもって、火災や故障の原因となります。

■ 機器の移動は、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがやケーブル破損の原因となります。

■ 他の機器との接続は、機器の電源を全て切ってから行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。

■ 過大入力を加えないでください。また、長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。

■ 長時間使用しないときは、電源ケーブルを取り外してください。
火災や感電、故障の原因となります。

目 次

安全上のご注意 …… P.02

目次 …… P.03

主な特長 …… P.04

梱包内容の確認 …… P.05

スピーカーの設置（安全にお使いいただくために） …… P.06

- スピーカースタンド、またはポールを使用して設置する場合
- サスペンション･ポイントを使用して天井から吊り下げる場合

内蔵パワーアンプについて …… P.07

- 安定した電源の供給
- 使用温度

コントロール部の名称と機能 …… P.08

- PRX612M / PRX615M / PRX625 / PRX635
- 入力感度の設定、ゲインの調整
- PRX618S
- PRX618S-XLF

セットアップ例 …… P.15

- 小規模なSRシステム
- サブウーファーを使用した音楽再生用SRシステム
- ステージモニターを含むライブパフォーマンス用SRシステム
- ステージモニターを含む大規模なライブパフォーマンス用SRシステム

故障かな?と思ったら（トラブルシューティング） …… P.19

仕様 …… P.21

主な特長

PRX600 Seriesは、クラスを超える高品位な音質を獲得。
軽量かつ堅牢なボディーは設置や運搬の際に扱いやすく、展示会や企業イベント、ライブなどの仮設PAに最適です。

■ 良質なコンポーネントを組み合わせ、優れた音質を獲得。

■ 高域は1.5インチ環状ダイヤフラムのコンプレッションドライバーを採用。ダイヤフラムの素材にポリマーを使用し、低歪率を達成。また、ドライバーからウェーブガイドへの流線を緻密に設計することで、極めて明瞭な音質と正確な再現性を獲得。

■ 低域には独自のディファレンシャルドライブ技術を採用。放熱に優れ、高い耐入力を実現し、再生帯域を拡張。

■ DSPはグループ企業のdbx、パワーアンプには同じくAMCRONの技術を適用。A/D変換部にdbx Type IVリミッター回路を搭載し、ダイナミックレンジを最大化。

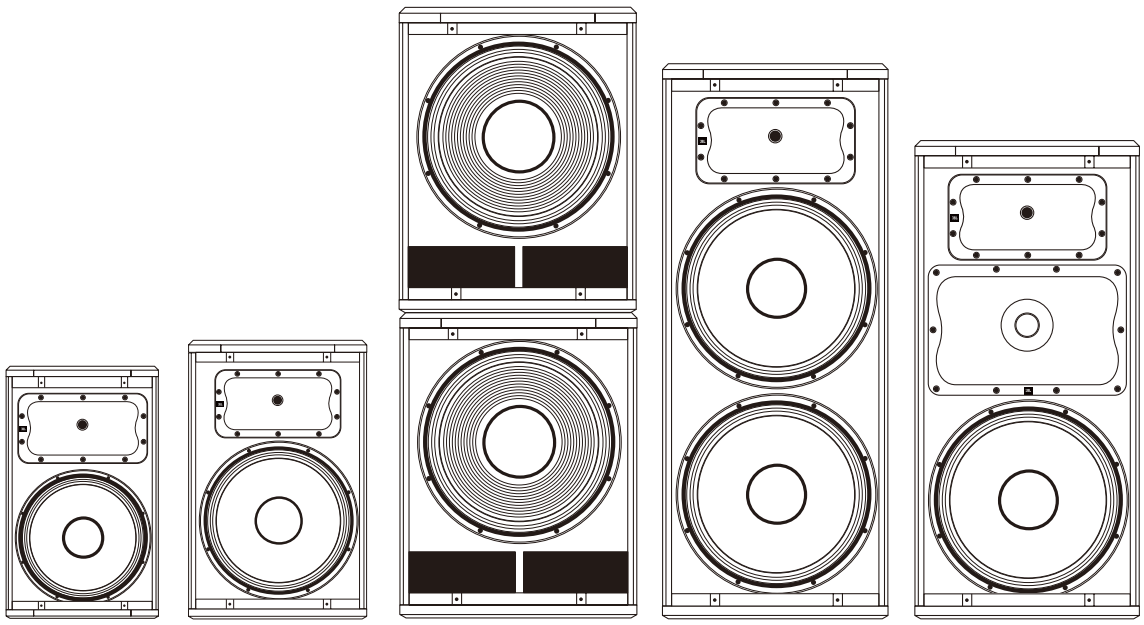
■ 高域、低域のドライバーに強磁力のネオジム磁石を使用することで、ドライブ能力を犠牲にせず小型化・軽量化を実現。

■ キャビネットに硬質なポプラ合板を使用し、強度を高める結合方法で組み立てることで高い堅牢性を実現。さらに耐衝撃性に優れるDuraFlexでコーティング。

■ バイアンプ駆動（PRX625、PRX635はトライアンプ駆動）で、各帯域を効率的にドライブし、高出力を実現。

■ フルレンジ・システムの入力端子はXLRとTRS標準フォーンに対応し、マイク／ラインの感度切替えが可能。

■ サブウーファーは極性の切替えとハイパスフィルターのON/OFFが可能。ループスルー接続ができる出力端子も装備し、フルレンジ・システムとの接続が容易。



PRX612M　PRX615M　PRX618S / PRX618S-XLF　PRX625　PRX635

梱包内容の確認

パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

- ■ 本体
- ■ 電源ケーブル
- ■ 英文取扱説明書
- ■ 和文取扱説明書
- ■ 保証書

スピーカーの設置（安全にお使いいただくために）

スピーカースタンド、またはポールを使用して設置する場合

PRX612M、PRX615M、PRX635は、スピーカースタンドまたはサブウーファー（PRX618S、PRX618S-XLF）をベースにポールを使用して設置することが可能なφ36mmのポールソケットを2個（PRX635は1個）装備しています。設置の際は、以下の注意事項を必ず守ってください。

- スピーカーの重量を支えられるスタンドまたはポールを使用してください。
- スタンドやサブウーファーは、平らで安定したところに設置してください。
- スタンドの脚は完全に開いて使用してください。演者や制作スタッフ、観客がひっかけないよう配置してください。
- スタンドやポールは、使用前にチェックし、摩耗、破損、または部品の欠落が見つかった場合は使用しないでください。
- 1台のスピーカー用に設計されたスタンドまたはポールに複数のPRX600シリーズ·スピーカーを設置しないでください。
- 野外で使用するときは、風でスタンドが倒れないように注意してください。必要に応じて、スタンドの開脚部に砂袋をのせるなど、安定性を高めるための対策をしてください。
- スピーカー·システムに垂れ幕などを取付けないでください。転倒の原因となります。
- スピーカーの重量を1人で確実に支えられる場合を除き、スピーカースタンドまたはポールへの設置作業は2人1組で行ってください。
- PRX635は、長さが60cm未満のポールを使用し、サブウーファーに設置してください。
- PRX618SまたはPRX618S-XLFのポール設置の荷重は30kg以下にしてください。

サスペンション·ポイントを使用して天井から吊り下げる場合

⚠警告 スピーカーを吊り下げる場合は、安全なリギングに関する研修を積んだ適切な作業員が行ってください。重量のあるスピーカーの安全が確保できていない状況での作業は、重大な傷害と機器の損失につながります。

⚠警告 この取扱説明書をよく読んで理解した上で、安全に吊り下げてください。保持装置への取付けは資格のある専門家にご相談ください。

⚠注意 プルバックポイント（背面のポイント）は、スピーカーの傾斜角度を調整するためのプルバック専用です。サスペンションポイントとして使用できるのは、上面および底面の取付けポイントのみです。

取付金具

天井からの吊り下げに使用する金具は、専用の金具を使用してください。5:1の安全率でM10サスペンションポイントを利用した場合の耐荷重は、2点吊り（均等荷重）で最大213kgです。
M10サスペンションポイントを利用して固定設備として設置する場合、JBL PROFESSIONALの229-00009-01を使用してください。このキットには、M10 × 35mm鍛造アイボルト（ワッシャー付き）が3個含まれています。

構造物への取付け

頭上への設置を行う前に、構造物への取付け位置および方法について、資格のある専門技術者の承認を得てください。
金具の取付けは、専門技術者が指定した方法で実施しなければなりません。安全なリギング方法がわからない場合は、リギング金具および業界慣行に精通した有資格者に相談してください。誤った方法で施工すると、損傷、傷害、または死亡事故の原因となります。

検査と保守

システムを吊り下げる前に、必要となる部品に亀裂や歪み、腐食がないか点検してください。また、設置の強度や安全を低下させる損傷や紛失した部品がないかどうか調べてください。
正常な機能を確保するために定期検査と定期保守が必要です。スピーカーおよび吊り下げ金具は、年1回以上および大地震の発生後なるべく速やかに疲労検査を実施してください。全ての角および荷重負荷面を目視検査し、亀裂、冠水、剥離など、エンクロージャーの強度低下の原因となる異常の兆候がないかを確認してください。また、アイボルトが緩んでいないかを確認してください。

内蔵パワーアンプについて

安定した電源の供給

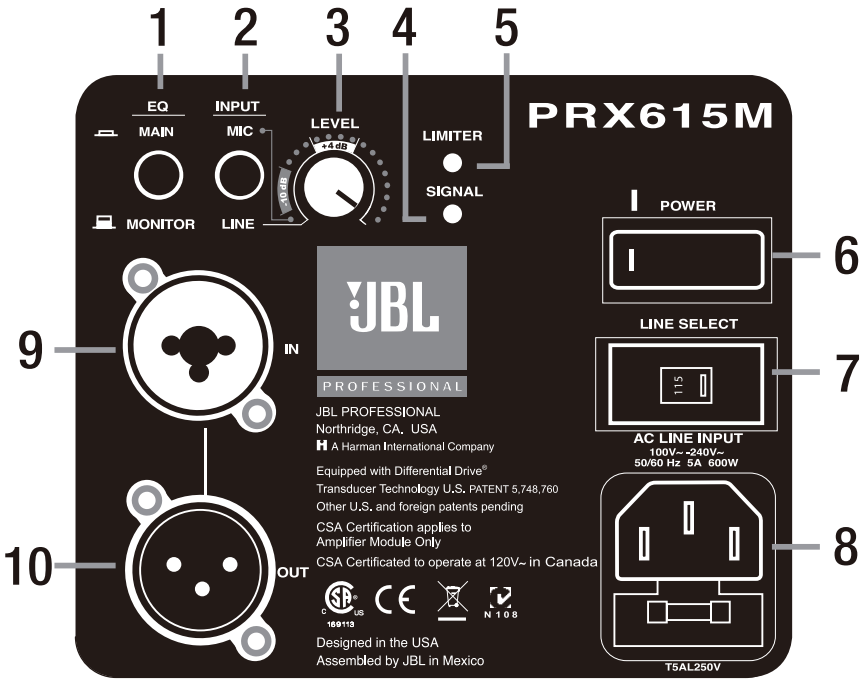
最大限の性能を得るためには、安定した電源供給が必要です。電源の供給が不安定な場合、低域再生性能に影響します。また、電圧が急激に降下すると、システム保護のために自動的に出力がミュートされます（電圧が回復すればミュートは解除されます）。複数のシステムを同じコンセントに接続したり、ケーブルを長く引き回したりすると、システムへの電源供給に影響することがあります。

使用温度

内蔵のAMCRON製パワーアンプは、高効率な設計が施されています。発熱を最小に抑えますが、まれに過熱し、保護のために自動的に動作を停止することがあります。温度が使用温度範囲内に戻れば再起動します。環境温度が非常に高い場合や、背面にあるヒートシンクに直射日光が当たっている場合などに過熱状態になることがあります。設置は冷却と遮光に留意して行ってください。

コントロール部の名称と機能

PRX612M、PRX615M、PRX625、PRX635　フルレンジ・システム



PRX615M コントロール部

1. EQスイッチ（MAIN/MONITOR　または　FLAT/BOOST）

イコライザーの種類を選択します。使用状況に合わせて選択してください。

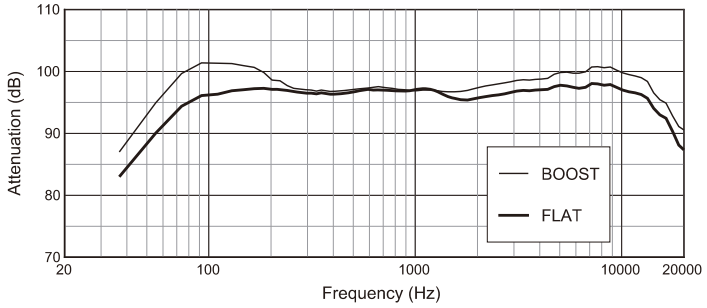
PRX612M、PRX615M … MAIN/MONITOR切替え

「MAIN」に設定すると、高域と低域を少し強調した特性に補正します。メインスピーカーとして使用する際は、「MAIN」に設定してください。「MONITOR」に設定すると、ステージモニターに最適なフラットな特性が得られます。

PRX625、PRX635 … FLAT/BOOST切替え

「FLAT」に設定すると、フラットな周波数特性が得られます。音楽の正確な再生、スピーチの拡声、音量を最大限まで上げたい場合は「FLAT」を選択してください。

「BOOST」に設定すると、低域と高域を少し強調した特性に補正します。録音した音楽を小さい音量で再生する時など、低域と高域の成分を足したい時に役立ちます。



「FLAT」と「BOOST」の周波数特性比較

2. INPUTスイッチ（MIC/LINE）

入力感度を選択します。詳細は10ページの「入力感度の設定」を参照してください。

3. LEVELつまみ

レベルを調整します。
INPUTスイッチで入力感度を「MIC」に設定した場合、適切な音量が得られるまでつまみを調整して出力音量レベルを決定してください。
INPUTスイッチで入力感度を「LINE」に設定した場合は、つまみを12時の位置に設定します。詳細は10ページの「入力感度の設定」と「ゲインの調整」を参照してください。

4. SIGNALインジケーター

信号が入力されると、緑色に点灯します。

5. LIMITERインジケーター

スピーカーが過負荷となり、クリップすると保護回路が作動し、LEDが赤色に点灯します。
LEDが常時点灯する場合、入力レベルが高すぎる、またはスピーカーのLEVEL設定が高すぎることが考えられます。入力レベルを下げるか、LEVEL設定を低くし、LEDが時々点灯するよう調整してください。

6. POWERスイッチ

電源をON/OFFします。
電源をONにすると、スピーカー正面のロゴ･バッジにあるLEDインジケーターが青色に点灯します。

■電源ON/OFF時の注意
電源をONにする時は、PAシステム全体の中で最後に行い、電源をOFFにする時は、PAシステム全体の中で最初に行ってください。
複数のスピーカー･システムをデイジーチェイン接続している場合は、末端のスピーカーから電源をOFFにしてください。

7. LINE SELECTスイッチ

電源電圧を選択するスイッチです。115Vに設定してください。

8. AC LINE INPUT端子

付属の電源ケーブルを接続してください。

9. INPUT端子

入力ソースを接続する端子です。
XLR、標準フォーン（メス、バランス）。
※ファンタム電源は供給できません。

10. OUTPUT端子

フルレンジの信号を出力します。
他のPRXシリーズのフルレンジ･システムとデイジーチェイン接続する際の出力として使用できます。
XLR（オス、バランス）。

入力感度の設定

PRX612M、PRX615M、PRX625、PRX635は、マイクロホンや楽器を直接接続できます。
さらに、−10dBの入力にも対応しているので、CDプレイヤーなどの民生用機器も接続可能です。

MICとLINEの設定

ミキサー、イコライザーなどのラインレベルの業務用音響機器を接続する場合、INPUTスイッチで入力感度を「LINE」に設定し、LEVELつまみを12時の位置（+4dBと表示されている領域）に合わせます。その後、LEVELつまみを回して最適なレベルに調整します。調整方法は「ゲインの調整」を参照してください。

マイクロホンや楽器などのマイクレベルの民生用音響機器を接続する場合、まず、LEVELつまみを左に回しきりの位置に合わせます。その後INPUTスイッチで、入力感度を「MIC」に設定します。レベルを徐々に上げ、LIMITER インジケーターが点灯し始めたら、それ以上はレベルを上げないでください。LEVELつまみを左に回しきった状態でもLIMITER インジケーターが点灯する場合は、入力感度を「LINE」に設定してください。

⚠注意 LEVELつまみが左に回しきり以外の位置にある状態で「MIC」を選択すると、音圧レベルが極端に高くなることがありますので、必ず左に回しきった状態から始めてください。

ゲインの調整

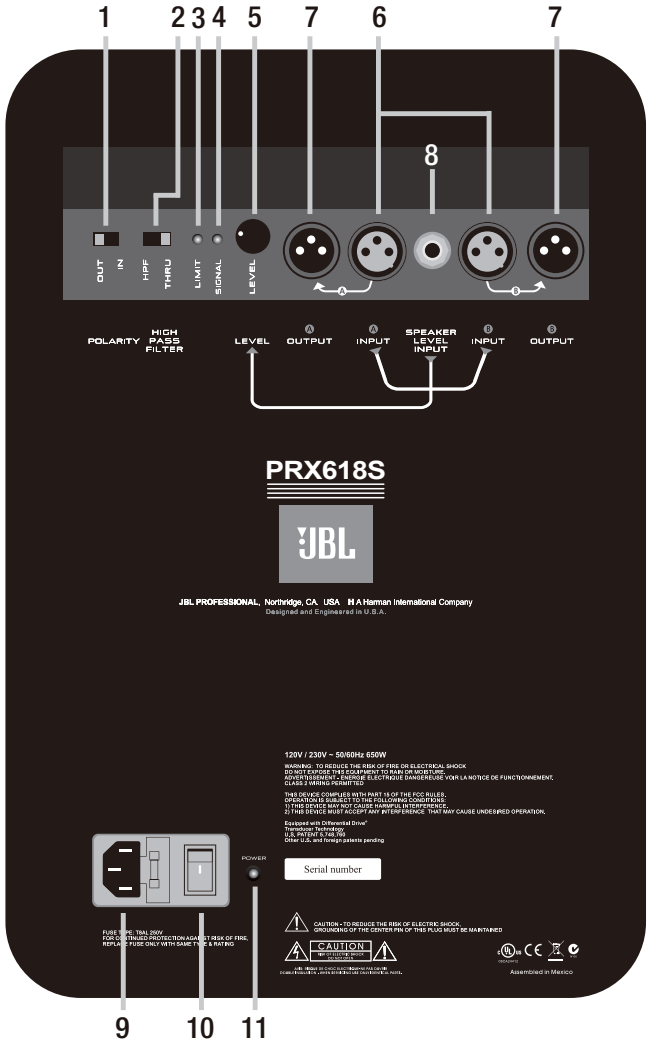
パッシブスピーカーと同様、システムの性能を最大限に発揮させるために、下記の手順に従ってゲインを適切に調整してください。
歪みやハウリングを最小限に抑えます。

1. 音源をミキサーに入力し、ミキサーの入力感度（トリム）を調整して最大入力レベル時にクリップの直前（クリップを示すLEDが点灯し始める）になるように設定します。
2. 1で調整した入力のチャンネル·フェーダーを0dBの位置に合わせます。
3. マスター出力フェーダーを0dBの位置に合わせます。
4. スピーカーのINPUTスイッチを「LINE」に設定します。LEVELつまみは12時の位置からはじめ、適切な音量が得られる位置、またはLIMITERインジケーターが点灯し始める位置に調整します。

PRX618S　サブウーファー

1. POLARITY設定(OUT/IN)

サブウーファーの極性を0°または180°から選択します。
「OUT」は0°(変更なし)、「IN」は180°(逆極性)です。極性を正しく設定すると、サブウーファーとフルレンジ·システムが自然につながり、聴感上の低域特性が向上します。聴取位置から異なる距離にサブウーファーとフルレンジ·システムを設置する時に、低域が弱く感じられる場合は、逆極性を試してください。



2. HIGH PASS FILTER設定(HPF/THRU)

OUTPUT A端子とB端子から出力される信号にハイパス·フィルターを適用します。

HPF

INPUT A/B端子から入力された信号を、ハイパス·フィルターを適用してOUTPUT A/B端子へ送ります。
クロスオーバー周波数：120Hz、24dB/Oct

THRU

INPUT A/B端子から入力された信号を、フィルターを介さずにそのままOUTPUT A/B端子に送ります。

3. LIMITインジケーター

スピーカーが過負荷となり、クリップする2dB前で、LEDが赤色に点灯します。
LEDが常時点灯する場合、入力レベルが高すぎる、またはスピーカーのLEVEL設定が高すぎることが考えられます。入力レベルを下げるか、LEVEL設定を低くし、LEDが時々点灯するよう調整してください。

4. SIGNALインジケーター

信号が入力されると、緑色に点灯します。

5. LEVELつまみ

レベルを調整します。
この調整は、フルレンジ·システムのレベル調整が終わった後に行ってください。
OUTPUT A/B端子の出力レベルには影響しません。

6. INPUT A/INPUT B端子

入力ソースを接続する端子です。
XLR(メス、バランス)。

※1台のサブウーファーに、ステレオ信号を入力できます。この場合、L/Rチャンネルの低域をミックスし、サブウーファーで再生可能なモノラル信号にして出力します。

7. OUTPUT A/OUTPUT B端子

フルレンジ·システムを接続する、または追加のサブウーファーをデイジーチェイン接続で連結するための出力端子です。
HIGH PASS FILTER設定に応じて、入力信号をループスルーした、またはハイパス処理した信号を出力します。
XLR(オス、バランス)。

8. SPEAKER LEVEL INPUT端子

パワーアンプやパワードミキサーなどからの、大きな音量の出力信号を受ける入力端子です。
既存のシステムにPRX618Sを追加するとき等に使用します。
TS標準フォーンジャック。

9. 電源コネクター

付属の電源ケーブルを接続してください。

10. POWERスイッチ

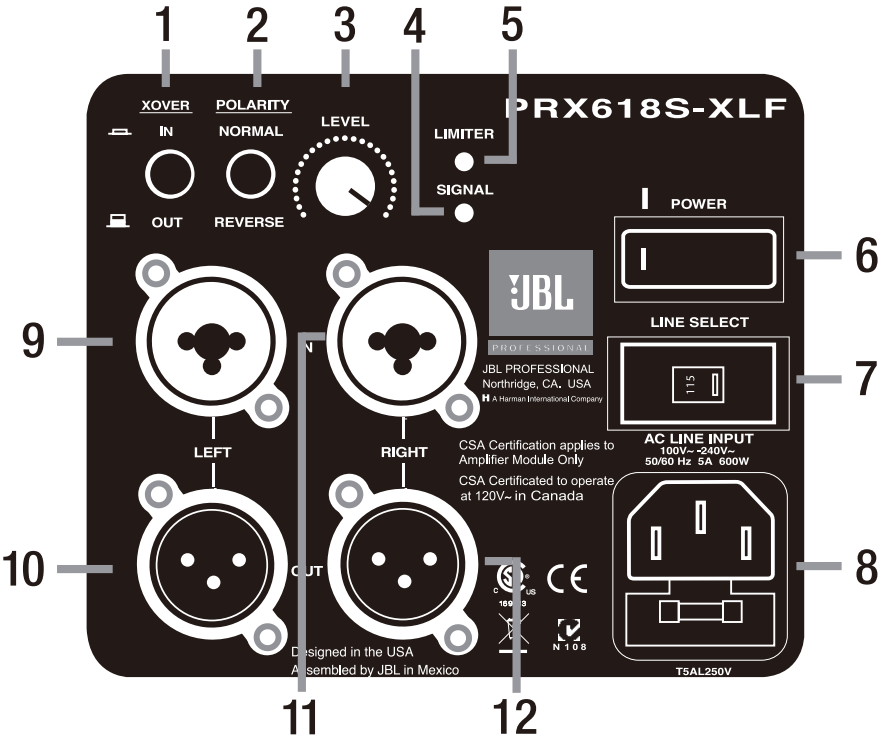
電源をON/OFFします。
電源をONにすると、スピーカー正面のロゴ·バッジにあるLEDインジケーターが青色に点灯します。

■電源ON/OFF時の注意
電源をONにする時は、PAシステム全体の中で最後に行い、電源をOFFにする時は、PAシステム全体の中で最初に行ってください。
複数のスピーカー·システムをデイジーチェイン接続している場合は、末端のスピーカーから電源をOFFにしてください。

11. POWERインジケーター

電源のON/OFF状態を示すLEDインジケーターです。電源ON時は青色に点灯します。

PRX618S-XLF　サブウーファー



1. XOVERスイッチ（IN/OUT）

ハイパス･フィルターのON/OFFを設定します。
「IN」の位置に設定するとハイパス･フィルターがONになり、OUTPUT端子から出力する信号にハイパス･フィルターが適用されます。
OUTPUT端子をフルレンジ･システムと接続する場合は、「IN」に設定してください。高域と低域の周波数特性が滑らかにつながります。
クロスオーバー周波数:90Hz、48dB/Oct

2. POLARITYスイッチ（NORMAL/REVERSE）

サブウーファーの極性を設定します。
「NORMAL」は正極性（変更なし）、「REVERSE」は逆極性です。極性を正しく設定すると、サブウーファーとフルレンジ･システムが自然につながり、聴感上の低域特性が向上します。聴取位置から異なる距離にサブウーファーとフルレンジ･システムを設置する時に、低域が弱く感じられる場合は、逆極性を試してください。

3. LEVELつまみ

レベルを調整します。
この調整は、フルレンジ･システムのレベル調整が終わった後に行ってください。OUTPUT A/B端子の出力レベルには影響しません。

4. SIGNALインジケーター

信号が入力されると、緑色に点灯します。

5. LIMITERインジケーター

スピーカーが過負荷となり、クリップすると保護回路が作動し、LEDが赤色に点灯します。
LEDが常時点灯する場合、入力レベルが高すぎる、またはスピーカーのLEVEL設定が高すぎることが考えられます。
入力レベルを下げるか、LEVEL設定を低くし、LEDが時々点灯するよう調整してください。

6. POWERスイッチ

電源をON/OFFします。
電源をONにすると、スピーカー正面のロゴ･バッジにあるLEDインジケーターが青色に点灯します。

■電源ON/OFF時の注意
電源をONにする時は、PAシステム全体の中で最後に行い、電源をOFFにする時は、PAシステム全体の中で最初に行ってください。
複数のスピーカー･システムをデイジーチェイン接続している場合は、末端のスピーカーから電源をOFFにしてください。

7. LINE SELECTスイッチ

電源電圧を選択するスイッチです。115Vに設定してください。

8. AC LINE INPUT端子

付属の電源ケーブルを接続してください。

9(左)&11(右). INPUT端子

入力ソースを接続する端子です。
XLR、標準フォーン(メス、バランス)。
※1台のサブウーファーに、ステレオ信号を入力できます。この場合、L/Rチャンネルの低域をミックスし、
サブウーファーで再生可能なモノラル信号にします。

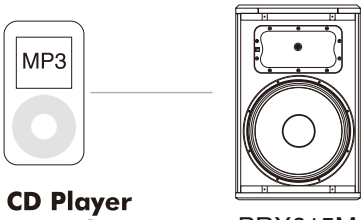
10(左)&12(右). OUTPUT端子

フルレンジ･システムを接続する、または追加のサブウーファーをデイジーチェイン接続で連結するための出力端子です。XOVERスイッチの設定に応じて、入力信号をループスルーした、またはハイパス処理した信号を出力します。
XLR(オス、バランス)。

セットアップ例

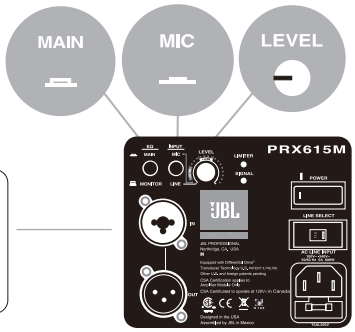
小規模なSRシステム

小規模な音響システムの例です。入力ソースを直接スピーカーに接続し、拡声します。入力端子はXLRまたは標準フォーンジャックに対応しています。INPUTスイッチ（入力感度選択スイッチ）で、入力ソースに最適な入力感度を選択してください。デイジーチェイン接続でフルレンジ・システムを追加することもできます。（出力はモノラル）



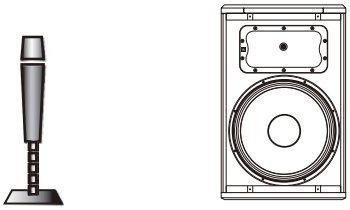
CD Player
MP3 Player
etc.

PRX615M

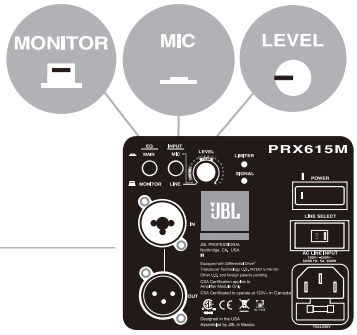


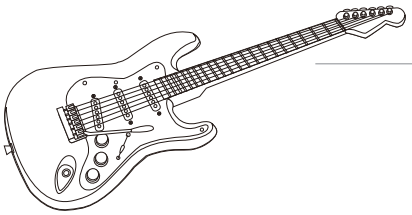
MAIN

MP3プレイヤーなどの民生用機器を接続する場合は、「MAIN」に設定してください。



Electronic Instrument
Microphone
etc.



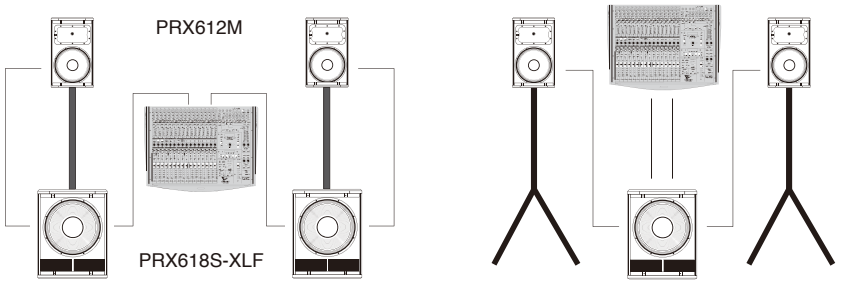


MONITOR

楽器やマイクロホンを接続する場合は「MONITOR」に設定してください。

サブウーファーを使用した音楽再生用SRシステム（PRX612MをPRX618S-XLFにポール・マウント）

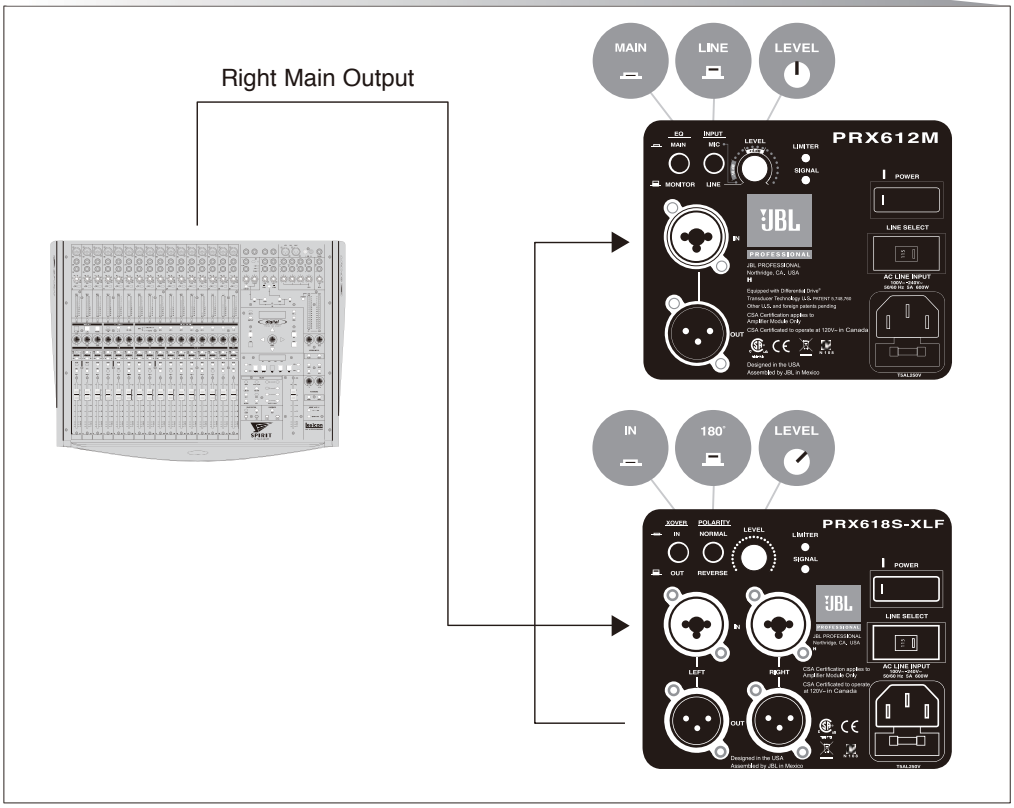
サブウーファーを含めたパワフルで多目的に使えるシステム例です。サブウーファーは低域を増強するだけでなく、ポール・マウント用のベースにもなります。
外部ミキサーのマスター出力をPRX618S-XLFのINPUT端子に接続し、XOVERスイッチを「IN」（ハイパス・フィルター適用）に設定します。PRX618S-XLFサブウーファーのOUTPUT端子とPRX612MのINPUT端子を接続します。
音量の調整は、まずサブウーファーの音量を下げ、フルレンジ・システム（中高域）の音量レベルを調整した後、サブウーファーの音量を合わせると、バランスのよい低域再生が得られます。



Note 1

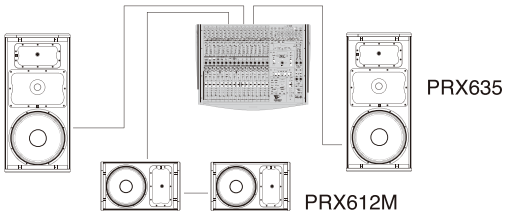
サブウーファーが1台の場合でも対応できます。

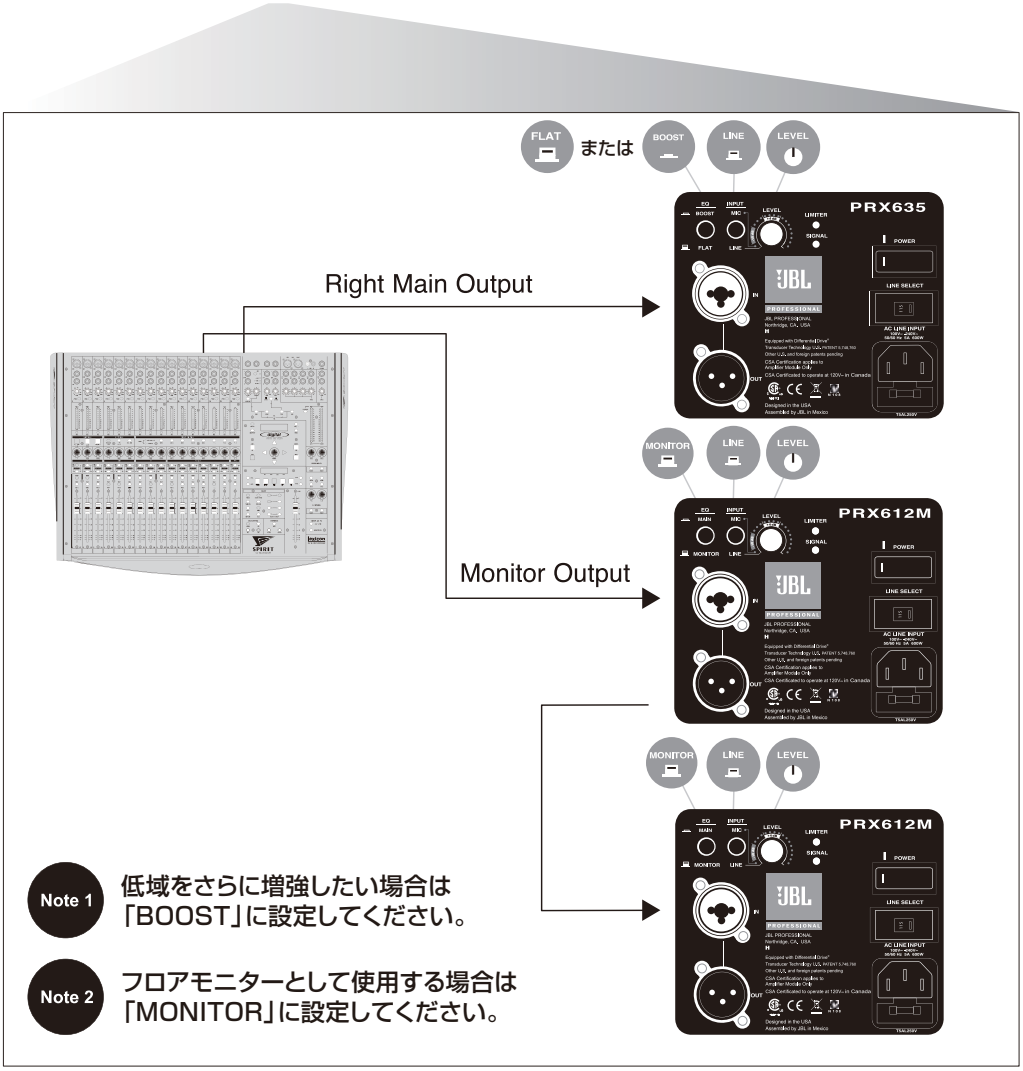
※サブウーファーが1台の場合は、ステレオ信号をミックスしてモノラルとして出力します。



ステージモニターを含むライブパフォーマンス用SRシステム（PRX635と、PRX612MまたはPRX615M）

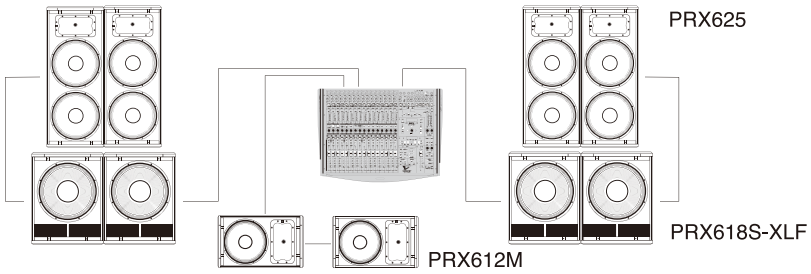
拡声範囲が広く、優れた指向性が必要な会場（残響音の多い会場など）に最適なシステムです。指向性が鋭いほどシステムと室内音響との分離がよくなり、明瞭度が高まります。
PRX635は、ホーンロード型の3-Wayシステムで、2-Wayシステムに比べて指向性のコントロールに優れています。
さらに、PRX635の優れた低域再生能力により、サブウーファーなしでも十分な低域を出力します。
PRX612MはEQスイッチを「MONITOR」に設定してください。
低域をさらに増強したい場合は、PRX635のEQスイッチを「BOOST」に設定してください。

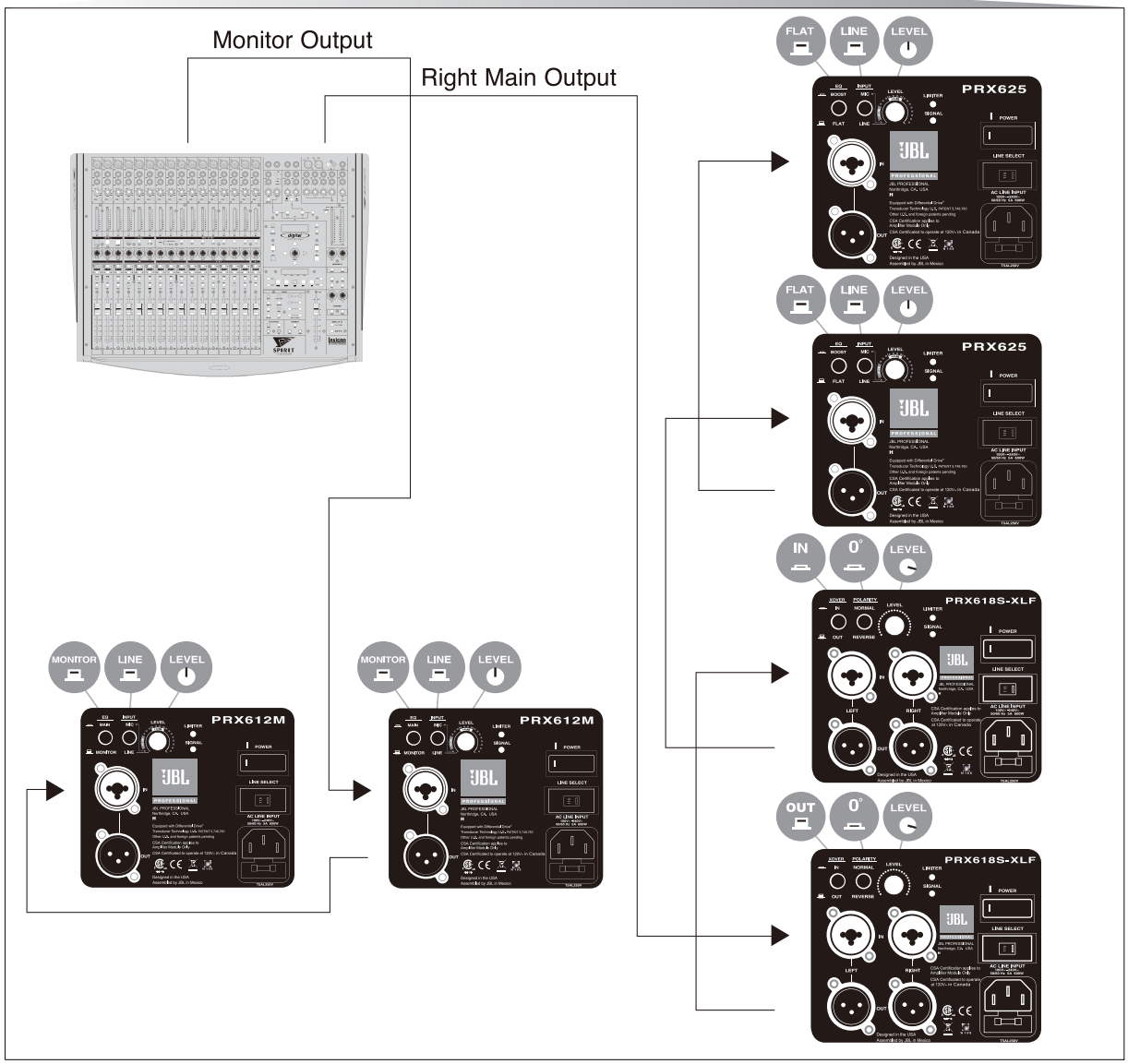




ステージモニターを含む、大規模なライブパフォーマンス用SRシステム（PRX625×4、PRX618S-XLF×4、PRX612M×2）

屋内または野外の比較的大規模な会場に最適なシステムです。15インチ・ユニットを2基搭載したPRX625は、重厚な低域と明瞭な高域を出力します。さらに、PRX618S-XLFサブウーファーを組み合わせることで、より力強い重低音が得られます。PRX625は2台1組で設置すれば、カバレージの拡大や音圧レベルの増強ができます。





故障かな?と思ったら(トラブルシューティング)

以下は、通常発生する症状とその対策です。解決できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	考えられる原因	対処方法
音が出ない	スピーカーに電源が供給されていない。	• 電源ケーブルの配線と通電状態を確認します。電源をONにした時にロゴ·バッジのインジケーターが点灯することを確認します。 • 電源ケーブルの両端を接続し直します。 • 正常な電源ケーブルと交換します。
	電源ケーブルの破損または正しく接続されていない	
電源が供給されているのに音が出ない	ヒューズ切れ	• 修理をご依頼ください。
	入力ソース(ミキサー、楽器など)から信号が出ていない	• 入力ソースを確認してください。
スピーカーの電源をONにしても音が出ない	接続している機器から信号がきていない	• 入力ソース(ミキサーなど)のVUメータを確認します。 • CD/MP3プレイヤーが再生されているかを確認します。 • ヘッドホンを使用して、楽器から信号が出力されていることを確認します。
	ケーブルまたはコネクターの不良	• ケーブルを外し、再度接続し直します。 • 異常が疑われるケーブルを正常なケーブルに交換します。
マイクロホンを直接接続して、入力感度をMICにしても音が出ない	コンデンサーマイクロホンを使用している	• PRX600シリーズは、ファンタム電源を供給しません。ダイナミック·マイクロホンを使用するか、外部ファンタム電源を使用してください。
	マイクロホン·ケーブルの不良	• ケーブルを交換します。
音が極端に大きく、歪む(LIMITERインジケーターが連続して点灯する)	スピーカーの能力を超えた過大入力	• 入力ソースの出力レベルを下げます。 • スピーカーのLEVELつまみでレベルを下げます。
中音量でも音が歪む(LIMITERインジケーターは消灯)	ミキサーまたはその他のソースのクリップ	• 各機器の取扱説明書を確認し、必要に応じて入力感度(ゲイン)を調整します。 • 信号経路のゲイン構造を確認します。

症状	考えられる原因	対処方法
ノイズやヒス※が出る ※「サー」というような高域で発生するノイズ。	接続機器や入力ソースにノイズが多い	・スピーカーに接続された機器を1つずつ取り外します。ノイズがなくなった場合、そのソースまたは接続ケーブルに問題があります。
ミキサーのレベル調整時にハムまたはバズノイズ※が増減する ※「ブーン」や「ジー」などの低域で発生するノイズ。	不適切な電源接地またはミキサーの入力に接続された機器の異常	・チャンネルを1つずつ切断またはミュートして、問題のある機器を特定します。トラブルシューティングについては、異常のある機器の取扱説明書を参照してください。
	接続機器とケーブルの異常	・異常が疑われるケーブルを正常なケーブルに交換します。
ハムまたはバズノイズが発生する	ACグラウンドの不良、グラウンド･ループ	・片側にXLR(メス)−XLR(オス)アダプターを挿入してグラウンドリフトします。 ・音声ケーブルを電源ケーブルや照明ケーブルから離してください。
	アンバランス･ケーブルが長すぎる	・ミキサーのバランス出力(装備されている場合)を使用して、PRXシリーズに接続します。 ・ダイレクト･ボックス(DI)を使用して、アンバランス出力をバランス出力に変換します。
	システムを構成している機器同士の入出力の感度が異なる	・各機器の取扱説明書を確認し、必要に応じて入力感度(ゲイン)を調整します。
マイクロホンの音量を上げるとハウリングが起こる	マイクロホンがスピーカーに向いている	・スピーカーをマイクロホンの指向範囲に入らない位置に移動します。
	イコライザー設定が不適切	・ミキサーのEQあるいは外部EQをフィードバックの周波数に設定してカットします。
	ゲインレベルが高すぎる	・ミキサーのゲインを下げ、マイクロホンを音源に近づけます。
音楽を再生すると低域が出すぎる	再生する音楽に低域が過剰に含まれている	・EQスイッチを「FLAT」に設定します。

仕 様

		PRX612M	PRX615M
システム	形式	2-Wayパワード･フルレンジ	
	最大音圧レベル	134dB SPL(MAIN)、133dB SPL(MONITOR)	135dB SPL(MAIN)、134dB SPL(MONITOR)
	周波数レンジ(−10dB)	50Hz〜19.5kHz(MAIN)、 60Hz〜19.5kHz(MONITOR、垂直)、 51Hz〜19.5kHz(MONITOR、水平)	45Hz〜19kHz(MAIN)、 55Hz〜19kHz(MONITOR、垂直)、 48Hz〜20kHz(MONITOR、水平)
	周波数特性(±3dB)	60Hz〜17.5kHz(MAIN)、 90Hz〜18kHz(MONITOR、垂直)、 61Hz〜18.5kHz(MONITOR、水平)	54Hz〜18kHz(MAIN)、 75Hz〜18.5kHz(MONITOR、垂直)、 60Hz〜18kHz(MONITOR、水平)
	入力端子	XLR、標準フォーン(バランス)×1	
	入力インピーダンス	20KΩ(バランス)、10KΩ(アンバランス)	
	インジケーター	リミッター(赤)、入力信号(緑)	
	イコライザー	プリセット(MAIN/MONITOR切替)	
	ダイナミクス	dbx Type IV リミッター回路	
	クロスオーバー	DSP制御 LF:48dB/Oct(ハイ&ローパス)、HF:36dB/Oct(ハイパス)	
	クロスオーバー周波数	2kHz	1.8kHz
パワーアンプ	駆動方式	Class D	
	出力	1000W(500W×2)	
スピーカー	ドライバー構成	LF 12インチ(305mm)262F-1×1、 ディファレンシャル･ドライブ、ネオジム磁石 HF 1.5インチ(37.5mm)2408H×1、ネオジム磁石	LF 15インチ(380mm)265F-1×1、 ディファレンシャル･ドライブ、ネオジム磁石 HF 1.5インチ(37.5mm)2408H×1、ネオジム磁石
	指向角度	90°×50°	
	エンクロージャー	非対称形、合板、18mm	
	ポールソケット	36mm×2	
	サスペンションポイント	M10×9	M10×9、プルバックポイント×1
	ハンドル	ラバーコーティング×1	
	仕上げ	DuraFlex	
	寸法(高×幅×奥行)	592×353×340mm	660×429×414mm
	質量	15.6kg	19.7kg

		PRX625	PRX635
システム	形式	2-Wayパワード・フルレンジ	3-Wayパワード・フルレンジ
	最大音圧レベル	139dB SPL	135dB SPL
	周波数レンジ(−10dB)	40Hz〜19.5kHz(FLAT)、 39Hz〜19.5kHz(BOOST)	41Hz〜19kHz(FLAT)、 40Hz〜19kHz(BOOST)
	周波数特性(±3dB)	55Hz〜17.5kHz(FLAT)、 50Hz〜18kHz(BOOST)	53Hz〜18kHz(FLAT)、 50Hz〜18kHz(BOOST)
	入力端子	XLR、標準フォーン(バランス)×1	
	入力インピーダンス	20KΩ(バランス)、10KΩ(アンバランス)	
	インジケーター	リミッター(赤)、入力信号(緑)	
	イコライザー	プリセット(FLAT/BOOST切替)	
	ダイナミクス	dbx Type IV リミッター回路	
	クロスオーバー	DSP制御 LF:48dB/Oct(ハイ&ローパス)、HF:36dB/Oct(ハイパス)	
	クロスオーバー周波数	1.8kHz	460Hz、2.75kHz
パワーアンプ	駆動方式	Class D	
	出力	1500W(500W×3)	
スピーカー	ドライバー構成	LF 15インチ(380mm)265F-1×2、 ディファレンシャル・ドライブ、ネオジム磁石 HF 1.5インチ(37.5mm)2408H-1×1、ネオジム磁石	LF 15インチ(380mm)265F-1×1、 ディファレンシャル・ドライブ、ネオジム磁石 MF 6.5インチ(165mm)195H×1、ホーンローデッド HF 1インチ(25.4mm)2414H×1、ネオジム磁石
	指向角度	90°×50°	
	エンクロージャー	台形、合板、18mm	
	ポールソケット	−	36mm×1
	サスペンションポイント	M10×9、プルバックポイント×1	
	ハンドル	ラバーコーティング×2	
	仕上げ	DuraFlex	
	寸法(高×幅×奥行)	1,053×430×413mm	921×429×413mm
	質量	27.2kg	

		PRX618S	PRX618S-XLF
システム	形式	サブウーファー、バスレフレックス	
	最大音圧レベル	129dB SPL	133dB SPL
	周波数レンジ(−10dB)	41Hz〜130Hz	30Hz〜105Hz
	周波数特性(±3dB)	50Hz〜100Hz	39Hz〜93Hz
	入力端子	XLR(バランス)×2、 TS標準フォーン(スピーカーレベル)×1	XLR、標準フォーン(バランス)×2
	入力インピーダンス	20KΩ(バランス)	20KΩ(バランス)、10KΩ(アンバランス)
	インジケーター	リミッター(赤)、入力信号(緑)	
	極性	正極性/逆極性切替	
	ダイナミクス	−	dbx Type IV リミッター回路
	クロスオーバー	アナログ 24dB/Oct	DSP制御 48dB/Oct
	クロスオーバー周波数	120Hz	90Hz
パワーアンプ	駆動方式	Class D	
	出力	600W	1000W(500W×2)
スピーカー	ドライバー構成	LF 18インチ(460mm)268G×1、 ディファレンシャル・ドライブ、ネオジム磁石	LF 18インチ(460mm)2268FF×1、 ディファレンシャル・ドライブ、ネオジム磁石
	エンクロージャー	立方体、合板、18mm	
	ポールソケット	36mm×1	M20ねじ込み式ソケット×1
	ハンドル	ラバーコーティング×2	
	仕上げ	DuraFlex	
	寸法(高×幅×奥行)	686×531×615mm	686×531×716mm
	質量	32kg	37kg

この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

HIBINO

http://www.hibino.co.jp/
E-mail:proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL:03-5783-3110　FAX:03-5783-3111

大阪ブランチ
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL:06-6339-3890　FAX:06-6339-3891

福岡ブランチ
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL:092-611-5500　FAX:092-611-5509

北海道オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL:011-640-6770　FAX:011-640-6776

名古屋オフィス
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL:052-589-2712　FAX:052-589-2719